MMU
LIBERAL ARTS

宮崎公立大学の今を伝える

MMU SHiP

エムエムユー
シップ

特集２

MMUで自分・家族・地域を守る人になろう

REAL VOICE　選挙　投票したいと思いますか？
KYO-SHiP　田宮 昌子 准教授
視界よしっ！　ニュージーランド ワイカト大学
しっぽり語る。　教師の卵のホンネ
@MIYAZAKI　温故知新 - 小さな町の大きな取り組み
CIRCLE DE GOSHiP　見事に復活したサークル
連続リレーエッセイ いいだしっぺ　山口 裕司 教授
MMU NEWS PLUS
未来の compass　JICA デスク宮崎　北園 さつ紀 さん

特集１

知っているようで知らない就活のコト

Miyazaki Municipal University Communication Magazine "MMU SHiP"

vol.07

今回の表紙　「学生企画による企業見学バスツアー」出発直前の学生

特集１のテーマは、就職活動。昨今、大学生の就職活動の激化が叫ばれていますが、宮崎公立大学（以下、MMU）では、学生が他の学生のために企画・運営等を行う「企業見学バスツアー」が開催されます。写真は、第３回ツアー出発前の様子。「自ら取り組む」という、本誌の学生記者活動にもつながる、MMUらしいイベントです。（P. ２へ）

宮崎公立大学広報誌『MMU SHiP』は、MMUの学生と職員が企画・取材・執筆・デザインを行っています。

特集 1

履歴書

知っているようで知らない就活のコト

MMU がどのような就職支援の取り組みを行っているのか、また MMU の学生がどのような就職活動を行っているのかについて、ご紹介します！

平成２６年 MMU卒業生 就職決定率 97.7% 達成！

就職・進路サポートプログラム

MMU では、入学時から卒業時までの就職・進路サポートプログラムに基づき、少人数教育を生かして、学生一人一人に対し、きめ細やかで充実した就職活動支援を行っています。

1年次
- 適性検査・解説
- 進路選択支援セミナー

2年次
- 正課のキャリア科目による職業意識の醸成
- 適性検査・解説
- 進路選択支援セミナー
- 学生企画による企業見学バスツアー

3年次前期
- 第１回就職ガイダンス（就活スタートアップ）
- 第２回就職ガイダンス（就活支援事業について）
- 自己分析セミナー
- 第３回就職ガイダンス（就職活動への心構え）
- 就活メイクアップセミナー
- 就活スーツ着こなしセミナー
- 学生企画による企業見学バスツアー
- 学内公務員講座（８月～３月）
- インターンシップ　４ページで詳しくご紹介！

3年次後期
- 第４回就職ガイダンス（就職活動の進め方）
- 自己分析シートによる面談（３年生全員）
- 就職対策テスト
- 会社を知るための日経の活用講座
- 第５回就職ガイダンス（履歴書・エントリーシートの書き方）
- 面接試験対策講座（マナー実技演習）
- 就職活動を終えた４年生との座談会
- 合同企業説明会バスツアー（福岡）
- 面接試験対策講座（集団面接演習）
- 公務員模擬試験

4年次
- 教員採用模擬試験
- 第６回就職ガイダンス（内定獲得に向けて）
- 学内企業説明会
- 公務員試験対策模擬面接（個人・集団）

就職支援室の全貌を公開！

① フリースペース

「就職支援室」とは、「キャリア支援係」と「就職支援係」で構成されている、学生の就職活動支援を行う部署のこと。就職に関する情報や、職員からのアドバイスを求めて、MMU の学生が通っています。

学生達のためのフリースペース。対策本などを閲覧したり、エントリーシートを記入したりするだけでなく、就職活動生間の情報交換の場としても利用されている。学生によると、「ここでお互いを励まし合うことで、モチベーションを向上することができた」との声も。

② 面接室

就職支援室の奥にある「面接室」。この部屋では、職員が就職活動に関する相談を受けたり、エントリーシート・履歴書の添削を行ったりしている。時には面接の練習場所として使用されることも。

③ 検索コーナー

インターネット検索ができるパソコンが３台、プリンタが１台設置されている。就職に関して気になる情報があれば、ここですぐに調べることができる。

④ 求人票・進路届コーナー

MMU への求人票と、卒業生が自身で就職活動について記録した「卒業生進路届」が自由に閲覧できるようになっている。進路届には、各企業の試験内容や就活のコツ等、先輩からのアドバイスが書かれており、就職活動を経験した学生ならではの生の声を知ることができる。

⑤ 就活対策本コーナー

エントリーシート・一般常識・SPI（適性検査）・面接・公務員試験の対策本や、企業が公開している基本情報が掲載されている四季報など、就職に関する本が並んでいる。内容・冊数ともに充実しているため、対策本などは購入せず、就職支援室で借りて使用しているという学生も。

就職支援室　宮田 瑞美さん
就職活動を迎える皆さんへ一言
「まずは会いに来てください。そこから、私達はあなたのサポーターです」

就職支援室　黒木 基 室長
就職活動を迎える皆さんへ一言
「漕ぎ出せ　広い荒海へ」

就職支援室　竹下 淳一 係長
就職活動を迎える皆さんへ一言
「大学生には多くの時間がありますので、自分のやりたいことを見つけてどんどんチャレンジしてください」

就職支援室　山本 登 室長補佐
就職活動を迎える皆さんへ一言
「夢の実現に向けて一緒に頑張りましょう」

「就職活動は餅つきのようなものである。１年次から２年次までは、餅米を蒸す、準備期間。３年次は餅をつき始める、活動開始期間。そして、４年次は餅を完成させる、いわば内定獲得を目指す期間。餅の美味しさは、どれだけ丁寧に準備できたかで決まるように、就職活動も、１年次から２年次にどれだけ準備できているかで決まる」。こう語ったのは、就職支援室の黒木基室長。４年間のサポートプログラムを通して、「学生が、１００％希望に近い企業に就職すること」を目標に掲げ、就職の質の向上を追求している。希望する進路の実現のために学生に求めることは、学生生活の早い段階で、学生だからこそ取り組める活動を充実させることだという。１年次から２年次の準備期間に行う進路選択支援セミナーや教養課程の科目「キャリア設計」を通じて、その必要性をぜひ実感していただきたい。

また、就職の質の向上のため、就職支援室が尽力しているのが、学生との「信頼関係の構築」である。学生の就職活動を最優先に考え、少人数教育ならではの利点を生かし、一人一人に声をかけ、進路への希望や悩みに耳を傾けている。また、学生全員の名前を覚える努力も惜しまない。３年次後期での自己分析シートによる面談の際、各学生のカルテを作成し、写真撮影を行い、学生全員の名前を覚え、常に就職活動状況を把握することを徹底している。このように、信頼関係を構築し、学生の現状をリアルタイムで把握することで、学生一人一人に対し、きめ細やかで充実した就職活動支援を可能にしている。

今日も、就職支援室は学生からの「内定を取りました！」という喜びの声を待っている。

就活は自分自身が成長するためにも経験すべきこと

Q.1 就職活動を始める際、どのようなことを意識していましたか？

自分の適性を考慮して、成果が給料に反映されやすい民間企業への就職を希望していました。東京などの都市部は九州に比べて就活のスタートが早いこともあります。常に逆算して行動するように心がけていましたね。同時に就職支援室で様々な情報を分析し、どの分野へ進むべきかを具体的に考えていました。

Q.2 就職支援室の魅力は？

相談しやすい環境でとても居心地がいいんですよ。自分と同じ就活生が同じ場所にいることも励みになります。また、先輩方の同意を得た就活の記録が公開されているので、MMU の学生が過去にどのような会社に決まったのかなどを詳細に知ることができ、企業研究にも役立ちます。他大学では個人情報として公開されていない場合もあるため、ここは MMU の大きな強みかと。

Q.3（Q.2 を踏まえ）就職活動においてどのように活かされましたか？

就職支援室の職員の方には、面接練習を繰り返す中で、細やかで的確なアドバイスをいただき、手厚くサポートをしていただきました。また、他の就活生と情報交換をしたり、時に世間話をしたりして、心身ともに助けになりました。就職支援室とは今でも繋がりがありますよ。この大学に入って一番良かったと思えるくらい、就職支援室の存在は私にとって貴重でした。

Q.4 最後に一言お願いします！

就活は自分自身が成長するためにも経験すべきことであり、必要なことだと思います。そして実際にいろんな人と話してみることです。私は在学期間中に海外７カ国を旅し、留学を経験する中でいろんな人と話をしました。就活でも同じように、たくさんの人と出会えたので楽しかったです。

小池さんの就活 MUST ITEM

手帳

会社名・時間・場所を書き込み、スケジュール管理を徹底しました！

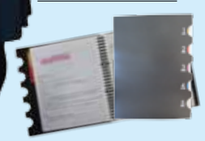
Meiji Seika ファルマ株式会社 内定
小池 沙也佳さん（４年 国際協力・地域経済ゼミ）

内定者が語る MMU の就活事情

佐賀県庁 内定
木寺 瞳さん（４年 行政論ゼミ）

木寺さんの就活 MUST ITEM

就活対策ノート



志望先について調べたことや自分の意見を１冊のノートにまとめ、面接・論文に臨みました！

ゼミ活動等の経験が就活に生かされた

Q.1 公務員を志望した理由は何ですか？

大学進学で故郷佐賀を離れ、さらに地元愛が強まったことで、将来は、好きな佐賀の役に立つことがしたいと思っていました。２年後期からのゼミで行政論を学んでいくうちに、その多岐に渡る仕事内容に魅力を感じ、県庁職員になろうと決めました。

Q.2 面接対策の方法を教えてください。

就職支援室の職員の方に面接官役を務めていただき、１回の面接につき平均５回は練習を行うようにしていました。その時教わったことは、質問の意図をしっかりと捉えて、自分の考えを自分の言葉で話すことが大事だということ。緊張で焦らないためにも、面接の練習は重要だと思います。

Q.3 就職活動を通して気づいたことを教えてください。

自分の経験を振り返ることで、私自身を知る「自己分析」の大切さです。ゼミやアルバイトなどの経験を振り返ってみると、自分がどんな役割を担っているのか、自分が人と比べて何が得意なのか明確になります。この自己分析をすることによって、履歴書上や面接などで自信を持って自分をアピールすることができました。

Q.4 MMU で学んだことは就職活動において、どのように生かされましたか？

ゼミ生と協力して研究発表を行うことで学んだチームワークの大切さやプレゼン方法など、MMU での一つ一つの経験が就活に生かされたと思います。また、チームで何か一つの課題に取り組む時に、全員が同じ目標を認識できるよう、全員の目線を揃えることが重要であると学びました。就職先でも、その経験を生かして、リーダーシップを発揮していきたいです。

■記事　福守 鴻人（１年）

企業見学バスツアー　企画・運営プロセス

1. 企画の学内プレゼン
2. 訪問先企業の決定・調整
3. 実施企画書の作成
4. 企業へのあいさつ・説明
5. 学生募集広告の作成
6. 学生への事前研修
7. ツアー行程の打ち合わせ
8. 添乗
9. アンケート集計分析
10. 反省会（振り返り）

学生企画による第3回企業見学バスツアー（体験型）に迫る！

「企業見学バスツアー」は、趣旨・目的の構想、企画の立案や準備、参加者募集から当日の添乗業務までを全て学生が行います。今回は、MMU ４年生が、後輩である３年生のために企画・実施した第３回ツアーに迫りました！

9:00　MMU 出発

①

②

①バスツアーは朝の学生の受付からスタート。出発３０分前から、本企画実施者の山﨑さん（４年）が参加学生の集合状況を確認します。

②バス内での注意事項の案内を行う山﨑さん。その後も、学生の誘導、訪問先でのプログラム進行などで大活躍！

9:30 ～ 12:30　株式会社ホンダロック

①

②

①グループディスカッションを体験。ホンダロックから指定されたテーマについて各グループ内で話し合い、最後に発表を行いました。そのテーマは直前まで告知されなかったため、不安を感じていた学生もいたようですが、「グループワークをすることで企業理解が深まった」と貴重な経験になったようです。

②お昼は社員食堂を体験。朝から緊張の連続だった学生が笑顔になったひとときでした。

13:20 ～ 15:20　株式会社宮崎日日新聞社

①

②

①②社員の方との座談会。３名の MMU 卒業生に参加いただきました。座談会形式だったことで、現役社員の方に対し、社内の雰囲気や、記者という仕事の大変さなど、自分の知りたいことをピンポイントで聞くことができたようです。

15:40 ～ 17:40　株式会社エイチアイエス at MMU

①

②

①社員の方に MMU にお越しいただき、学生が旅行企画を提案するプレゼンの時間が設けられました。当日までの約１カ月間、グループごとに準備・練習を行ってきた成果披露の場。選考会場のような緊張感が漂っていました。

②プレゼン発表後、社員の方から各グループの企画内容について講評をいただきました。学生にとっては「社員の方から生のフィードバックをもらえたことが嬉しい」「企画の大変さを知ることができた」など、大きな収穫があったようです。

参加した学生からは、「実際に行って話を聞いてみないとわからないことがあると実感した」「自分に合った企業選択をする手段として有意義な企画だと思う」などの感想がありました。

私が企画・実施しました！

山﨑 翔平さん
４年　政治学ゼミ

Q 企業見学バスツアーを企画したきっかけは何ですか？

A 就職活動を終えたばかりの私が携わることにより、就職活動生に近い目線で、参加学生の要望を反映した企画ができる点に魅力を感じたことがきっかけです。また、旅行会社の内定を獲得しているので、どのような企画・行程なら参加者が集まるかを考えることや、訪問先の企業との打ち合わせを経験することも、就職後の自分にとって有益になるのではないかと考えていました。

Q 特に気をつけた点はありますか？

A 学生がプレゼンの企画で行き詰まっていたら、発表練習時間以外でも声をかけたり、アドバイスをするように心がけました。

Q この企画を通して、どのような経験ができましたか？

A 企画の大変さだけでなく、多くの方が携わってくださったことで、一つのツアーを完成させることができたことへの感謝の気持ちを実感しました。バスの中でも、注意事項の案内や参加者の誘導など、添乗員のような役割をさせていただきました。内定先である旅行会社での座学研修で、添乗に関する資格を取得していたので、その知識を生かす、良い機会になりました。

KYO-SHiP
ーMMU教員の頭の中ー

MMUの教員が、講義では垣間見られない「頭の中」を語ります

Vol.06

田宮 昌子 准教授（中国文化論）

Associate Professor　Masako Tamiya

大学では中国文学を専攻。広告代理店勤務や渡米渡欧を経て、愛知大学大学院中国研究科で中国思想を研究。博士後期課程を満期退学して、1999年MMUに赴任。

Theme1 中国語は音

大学では中国文学を専攻したけど、日本文学に未練があって１年の春は転学を考えてた。でも、ふと聞こえた中国語の響きに感動して、「自分の身体からこんなきれいな音を出したい！」とスイッチが入った。言語はまず音！特に中国語はね。１年生は上級生からの指導の下、１年間毎朝発音の特訓。２年生になってからは毎朝１年生を教えた。中国語を遣うには１にも２にも１０にも発音（笑）！だから、MMUの中国語課程でも発音を重視しています。

Theme 2 言語学習は異文化体験

他言語を学ぶことで「ある一つの言語の枠を通して世界を認識している」ことに気づく。日本語の「肩こり」を知って肩がこり始めるようにね（笑）！　自分が持っている枠に気づけば、それ以前よりその枠から自由になれる。たとえ上級者になれなくても、この「視点」獲得に他言語学習の意味がある。

Theme 3 異文化実習について

蘇州大学（中国の実習先）で一カ月「暮らす」ということ自体が「実習」。その土地の空気や音や匂いが五感に馴染んできて、他所に行って蘇州大に戻るとホッとして懐かしいと思う。少し前まで地球上に存在することすら知らなかった場所なのに。そういう体験を通して「世界のどこでもそうあり得る」ことが理屈抜きで分かるようになる。まだ自分が知らないどんな平凡な片隅にも自分が好きになる場所があって好きになる人がいる、と。世界の感じ方が変わってくる。こういう「世界観」をMMUで育てていけたら。

Theme 4 研究テーマについて

研究テーマは「中国文化史上における屈原像の変遷と継承」。屈原は個人名を冠する作品を残した中国史上初の詩人で、彼の人生を伝えたのは、あの司馬遷の『史記』。中国の文人は天下国家に志す。志には挫折が付きもの。そこから悲劇的浪漫が生まれる。中国の文学・文芸に特徴的な系譜性、政治性、男子の悲劇的情緒…。それは病であり美意識であり、時々うんざりするけど（笑）「面白い」と思って追いかけています。

Theme 5 低成長時代にめぐりあわせた学生たちへ

大学時代は苦学生。新聞店に住み込んで新聞配達をしながら進学した。親からは一銭の支援も受けなかった。跡取りの長男が生まれるまでに娘が３人も生まれていたから、家では娘たちは高校までと決めていた。向かい風に全力で突進するように生きていたから、暇を持て余す学友たちとはそぐわなかった。それが８０年代中国の生真面目さや社会性の強い中国文学に惹かれた一因かも。

MMUで教え始めた頃は学生に全力で向かって怖がられた（笑）。これでも今は力を抜くよう気を付けているんだけど（笑）。「老後は半世紀早い！」「もっと青くて角があっていい！」「熱いのは恥ずかしいことじゃない！」と言いたい。

Theme 6 戦後７０年に、戦後１００年を考える

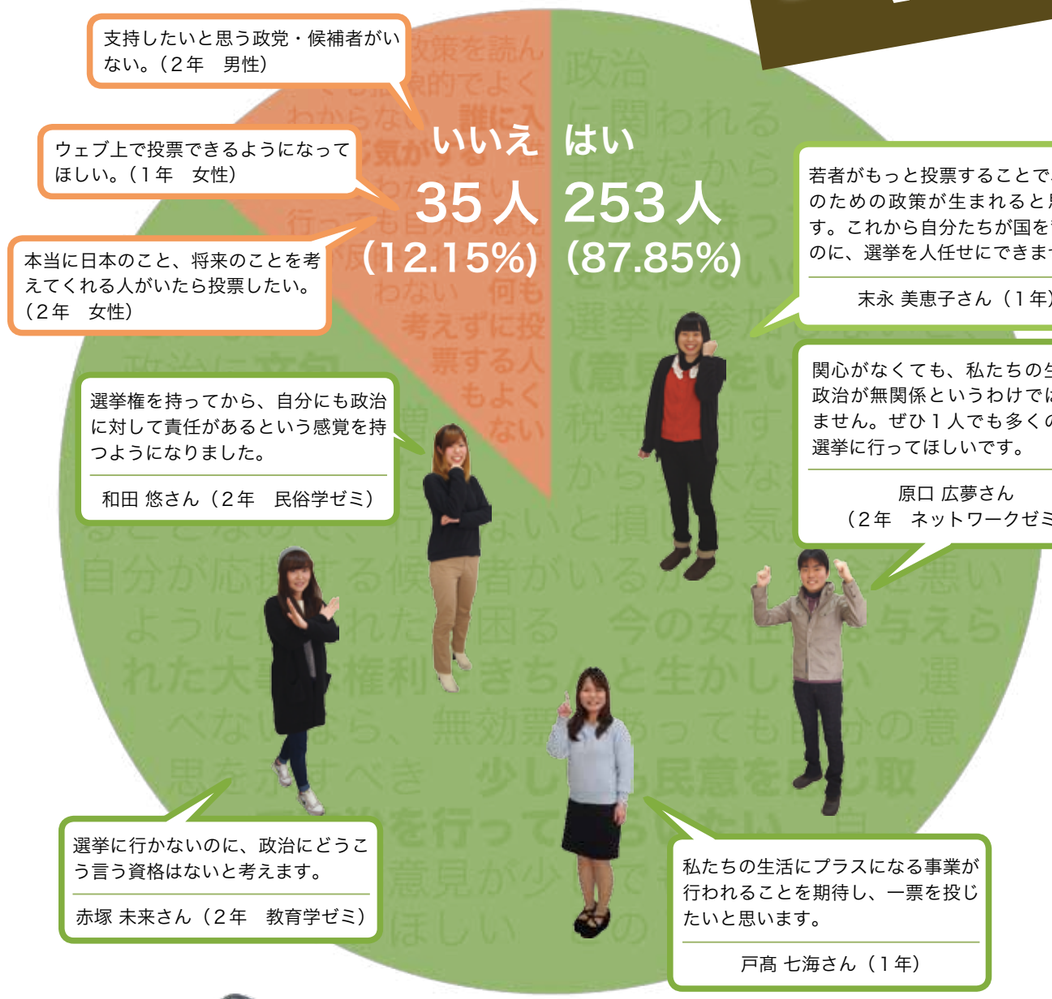
今年は戦後７０年。まさに「山雨欲来風満楼」の気配？戦後１００年の東アジアは、どんな姿であるべきなのか、そのために今年からの３０年に何をすべきか、その歳月を担っていく学生たちと、「地域」に根ざした国際化を掲げるMMUは考えて行くべきだと思う。

■記事　七野 帆乃美（２年　文化人類学ゼミ）
　取材　at　茉莉花

MMU MEMBERSHiP REAL VOICE

テーマ：選挙 投票したいと思いますか？

対象：MMUの「日本国憲法」（平成２６年１２月１７日）、「日本国憲法入門」（同１９日）の受講者（開放授業としての市民受講生を含む）及びウェブサイトによるアンケート（同１３日～３１日）に回答したMMUの学生。有効回答数：288人
※未成年者は、「選挙権があった場合の投票する意思の有無」を回答。



支持したいと思う政党・候補者がいない。（２年　男性）

ウェブ上で投票できるようになってほしい。（１年　女性）

本当に日本のこと、将来のことを考えてくれる人がいたら投票したい。（２年　女性）

選挙権を持ってから、自分にも政治に対して責任があるという感覚を持つようになりました。

和田 悠さん（２年　民俗学ゼミ）

若者がもっと投票することで、若者のための政策が生まれると思います。これから自分たちが国を背負うのに、選挙を人任せにできません。

末永 美恵子さん（１年）

関心がなくても、私たちの生活に政治が無関係というわけではありません。ぜひ１人でも多くの人に選挙に行ってほしいです。

原口 広夢さん
（２年　ネットワークゼミ）

選挙に行かないのに、政治にどうこう言う資格はないと考えます。

赤塚 未来さん（２年　教育学ゼミ）

私たちの生活にプラスになる事業が行われることを期待し、一票を投じたいと思います。

戸髙 七海さん（１年）

有馬 晋作 教授
（行政論ゼミ）

専門家の目
リーダーが代われば政治は変わる

実際の投票率を年代別に見ると２０代は低く、５０代以上が高くなる傾向にありますが、今回は意識調査ということもあって、「はい」と回答した学生が大半を占めています。学生１人１人にこの意識が根付けば実際の投票率も上昇するでしょう。

「選挙に行かず政治に不満を言うのはおかしい」というコメントが多数ありましたが、これは実に基本的な意見ですね。逆に、「選挙に行っても行かなくても何も変わらない」という意見がありましたが、新しいリーダーが決まれば新しい政策が始まりますから、変わらないはずがないんです。ただし、学生の皆さんが多様な意見を持っているということは、少なからず今の政治に不満があることの表れでしょう。その不満を選挙に行く理由にし、投票に繋げてほしいですね。

■記事　武藤 桜華（１年）

特集2

講義「自然災害と防災・減災」を通じて

ＭＭＵで自分・家族・地域を守る人になろう

いつ起こるかわからない災害をＭＭＵでとことん学ぶ

私たちは、普段何気無く日常生活を送っている。例えば、ＭＭＵの学生が、大学で勉強をする、部活動に参加する、友人と談笑する…そんなかけがえのない日々のある一瞬に大災害が起こったら、どのように対応したら良いのだろうか。また、被害を最小限に留めるためにどんな備えができるのだろうか。

新カリキュラムの導入に伴い、ＭＭＵでは２０１４年度後期に「自然災害と防災・減災」が開講された。１０３大講義室にてほぼ満席の状態で進められたこの講義では、要件を満たせば防災士試験の受験資格も得られる。防災士とは、自助・共助・公助を原則として地域社会等の様々な場において防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識や技能を習得したことを日本防災士機構が認証した資格である。

受講内容には災害の発生メカニズムや、けが人の運び方、地域での取り組み、行政の活動等を学ぶ。例えば、「もしエレベーターの中で地震にあった場合はどうしたらいいか」という実践的なものもある。ちなみに正解は「全ての階のボタンを押して、とりあえず止まった階で降りる」である。

ＭＭＵの建学の理念の１つに、「地域貢献」がある。地域に開かれた大学として学生が緊急時に対応できるよう励んでいるのだ。また、市民の方が学生と共に講義を受ける「開放授業」の対象でもある本科目。ＭＭＵから広く地域社会へ、また個々人の身近な家族や友人を守るためにも防災への取り組みが着実に進められている。

災害発生時に大切なこと

自助
自分の命は自分で守る

まずは自分の命を守ることができなければ、家族や隣人を助けることはできない。日頃から身の回りの備えを行い、防災・減災への知識や技能を習得し、絶えずスキルアップに努める。

共助
地域・職場で助け合い、被害の拡大を防ぐ

日頃から地域や職場の人たちと協力して啓発活動に努める。昨今の大災害においてもこの共助が大きな助けとなっている。MMU の学生はぜひともここで力を発揮し、防災への意識を高めてほしい。

協働
市民・企業・自治体・防災機関等が協力して活動する

地域の防災コミュニティの形成に積極的に参加して様々な組織、団体との連携を心がける。お互いに顔の見える関係をつくり上げ、災害に対する事前の備えがある地域社会づくりに貢献。大規模災害被災地へ「助け合いの精神」のもと、可能な範囲でボランティア活動を行うことが期待される。

自分が暮らす町での人との繋がりが必要

辻 利則 教授
「自然災害と防災・減災」担当

自然災害の多い日本に住むために必要な知識を身につけ、大学生活そして卒業後も生かしてもらいたいと思い、MMU で「自然災害と防災・減災」を開講しました。

毎週１つのテーマを取り上げ、レポートの提出を課し、１つ１つを大事にしっかりと考えられたのではないかと思います。講師陣も、自分達の町を自分達で考えようと、地元「宮崎」のメンバーを揃えました。初年度となる今年は、開放授業受講生である社会人の方 16 名を含め、200 名以上が受講し、63 名が「防災士」試験を受験しました。

将来予想される災害への備えだけでなく、今、住んでいる町で、人と人との繋がりが必要だということも学びます。MMU は県外出身の学生も多く、「実家の親にも学んだことを伝えないと」という感想を多く聞きました。命を守るための知識を、受講した学生１人１人が家族・友達・周りの人たちと話をして広めていく。若い人たちがこの講義をきっかけに、町づくりに興味を持ち、その中から数名が地域のリーダーとして活動していくようになれば、ものすごい「力」になると思います。

今後、こういったことを学内にとどまらずＭＭＵから発信していけたらいいですね。

防災士 資格取得の３ステップ

STEP 1 講義「自然災害と防災・減災」を受講

消防士、学者、ジャーナリスト、行政、医師などバラエティーにとんだスペシャリストを講師に迎え、より実践的な講義を展開。災害が起きた時、確実に対応できる基礎を身につけていく。

「自然災害と防災･減災」講義内容（平成２６年度実績）

防災士の役割（宮崎県防災ネットワーク）
津波の仕組みと被害（宮崎大学工学部准教授）
土砂災害と対策（国土交通省宮崎河川国道事務所副所長）
火山噴火の仕組みと被害（宮崎大学工学部准教授）
緊急救助技術を身につける（宮崎市消防局）
行政の災害対応（宮崎市危機管理局）
災害とボランティア活動（宮崎県社会福祉協議会）
耐震診断と補強（宮崎大学農学部教授）
災害医療（宮崎市郡医師会病院医師）
地震の仕組みと被害（宮崎大学工学部教授）
地域の自主防災活動（みやざき公共・協働研究会事務局長）
災害情報の発信と入手（MRT 宮崎放送アナウンサー、宮崎日日新聞社報道部次長）
公的機関による予報・警報（宮崎地方気象台予報官）
災害と危機管理（宮崎県危機管理局）
災害と損害保険（日本損害保険協会九州支部事務局長）
（※毎週レポートの提出あり）

STEP 2 救命救急講習を受講

消防士、消防団の方を講師に招き、救命救急術を学ぶ。①胸骨圧迫、②人口呼吸、③ＡＥＤを使った心肺蘇生術、④止血法等。災害時だけでなく、日常においても必要となる可能性があるこれらの救命術を着実に身につけ、身近な人、大切な人を自分で助ける術をマスターする。

STEP 3 資格試験を受験

１５回の講義に出席し（１２回以上出席し、欠席した講義も補講を受ける）、レポートを提出、救命救急講習を受け、防災士資格試験受験の要件を満たす。５０分間の試験を受け、７割以上正解で晴れて防災士の資格が取得できる。
防災士の知識を生かし、地域の防災の担い手、地域のリーダーとして活動する。

● 受講者の声 ●

はじめは、自分の事として捉えていませんでしたが、災害への意識が変わりました。同僚の「やり始めたら最後までやらないと」という言葉に背中を押され、学生さん達と一緒に毎回良い雰囲気で受講できてよかったです。最後まで取り組めば自分が思ったことは出来るんだと前向きになれました。

山田 幸子 さん
（開放授業受講生）

講義を通して、普段聞くことのない貴重な話を聞くことができ、災害について何も対策を講じていないことに危機感を覚えました。この講義を受ける前と受けた後での防災・減災に対する意識はとても変わり、災害に対する知識を多く習得することができたと思います。そして、防災士にも合格しました。

山内 栞 さん
（２年　ネットワークゼミ）

■記事　七野 帆乃美（２年　文化人類学ゼミ）

世界へ漕ぎだせ！

視界よしっ！

YOSHIP!!

vol.07 ニュージーランド／ワイカト大学
New Zealand / The University of Waikato

田代 優里奈さん
4年　国際関係論ゼミ

ニュージーランドのワイカト大学に公費留学をした田代さんに、その貴重な体験談を語っていただきました

―公費留学を目指したきっかけは？

両親が新婚旅行でヨーロッパを巡った話を聞き、興味が湧いたことに始まります。中学2年の頃に1カ月間、大学1年の頃に2カ月間、イギリスに行きましたし、中学の頃にはもう「大学時代に絶対、1年間留学する！」と決めていましたね。当時はまだMMUが英国と協定を結んでいなかったので、ニュージーランド（NZ）に行くことにしました。

―留学準備について教えてください

高校の頃、英語をひたすら勉強したことで、大学入学後に初めて受けたTOEICで800点を超えていました。それでも、英語を忘れないように、洋楽や洋画、塾講師のアルバイト等で英語に触れていました。また、留学先で国際政治を学びたかったため、それに関する文献を読んでいました。

―公費留学中の勉強について教えてください

NZでは、英語で講義を受講しました。安全保障の理論や具体例、戦争、歴史等について学ぶことができました。

最初は英語の訛りについていけませんでしたが、ルームメイトがネイティブばかりだったので、2週間で慣れました。わからないときに「わからない」と言いやすい授業でしたね。先生が喋っているのを止めて、学生の疑問点を聞こうとする姿勢がありました。日本ではあまり見られない光景です。

―留学時の準備物について教えてください

少ない荷物で向かいました。ほとんどのものが現地で買えるから、大丈夫でしたね。スーツケースではなく、バックパックを持っていくと、身軽で便利です。あとは、ネイルなどのオシャレ道具を持っておくと楽しいかもしれません。

―留学中の思い出などを教えてください

長期休暇を使って、ホステル*に泊まりながらバスで一人旅をしました。旅の途中で、バンジージャンプをしましたよ！　バンジージャンプをアクティビティ化したのはNZが初めてらしいんです。最初は140メートルを飛ぶつもりでしたが、川が増水していたから40メートルに挑戦することに。あぁ、低いなって（笑）。上に立った瞬間はひやりとしましたが、楽しかったです！　他にも、フィヨルド、クジラ、オットセイ……ひたすら自然を堪能しましたね。

―公費留学に行く前と後での変化は？

行動力やフットワークの軽さ、積極性が、以前の留学後よりもさらにパワーアップしたという感じです。「よく学び、よく遊べ」とゼミの先生から言われていますしね。留学前にもそうしていたんですけど、成績もちゃんとクラス1の点数やA評価をとれるようにしていました。

―公費留学を目指す後輩にメッセージを！

ガッチガチに勉強するんじゃなくて、楽しいことを見つけながら勉強したほうがいいと思います。MMUって、けっこう真面目な子が多いですよね。一生懸命勉強して真面目に留学しに行くんです。だけど、私は、楽しみながら勉強したほうがいいと思います。「よく学び、よく遊べ」！

*ホステル…1部屋にベッドが4～16個ほど並ぶ宿泊施設。キッチンやリビングがあり、シェアハウスのような造りになっており、同じ部屋に、知らない人同士で泊まる。安くて人気！

浴衣を通して日本文化をアピールする田代さん

ＮＺの有名なソフトドリンク「レモン＆パエロア」（L&P）に恋をした

公費留学（ワイカト大学）のMMUによる支援

- ●該当期間の授業料免除（MMU及びワイカト大学に支払う授業料の全てを免除）
- ●該当期間、奨学金7万円を毎月支給
- ●渡航助成金として片道8万円を往復分支給
- ●協定校等での学修を、本学の単位として認定（一部卒業単位として利用可能）

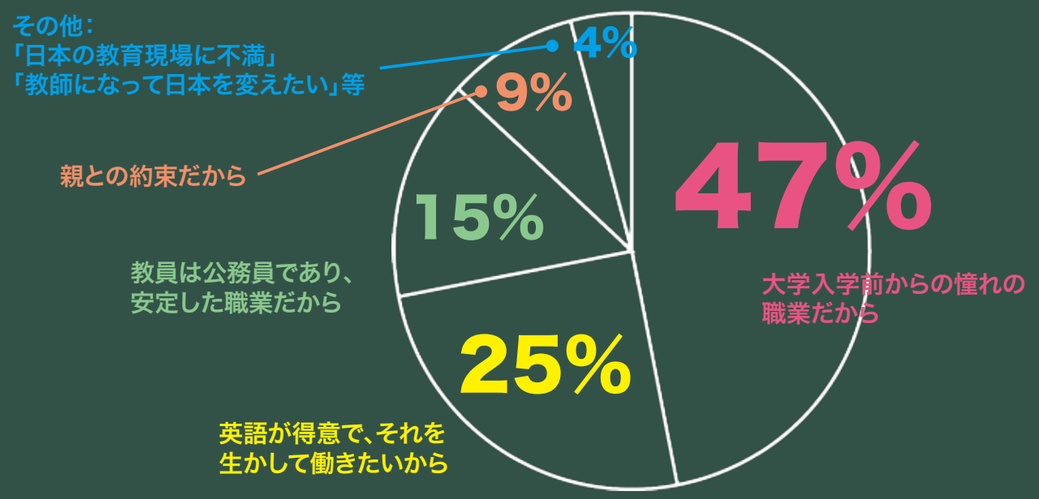
※発行時現在。支援内容は渡航先によって異なります。

■記事　多田 恵菜（2年　大衆文化・出版文化論ゼミ）

SHiPPORI　～教師の卵のホンネ

MMUでは英語（中学校・高校一種）の教員免許を取得できますが、そのための単位は卒業単位に含まれません。つまり、教職課程履修者は講義をより多く受講する必要があります。教職課程を履修する上での苦楽やモチベーションについて、しっぽり語っていただきました。

MMU教職課程履修学生へのアンケート
Q.あなたが教師を目指す理由は？（有効回答数：32件）



座談会

多田（以下、多） 教師になろうと決めたきっかけは？

松本（以下、松） 昔からよく「教え方が上手だね」「説明が分かりやすい」と言われてきたことがきっかけです。今は教師になるのが目標ですが、正直、担当教科にはこだわっていません。生徒たちには「生き方」を教え、サポートしていきたいです。

與那（以下、與） 中学の頃、陸上部に所属して、部活動一本の生活を送っていました。そこで、自分の学校の先生に加えて他校の先生とも接する機会があったんです。多くの先生方とさまざまな会話をしていく中で、学校が楽しいと思えるようになったことが大きかったですね。私も学校で働きたいって思いました。

恩田（以下、恩） 僕の中学時代の担任の先生が、一人一人をちゃんと見てくれる方で、今でも憧れの存在です。また、僕の好きなハリーポッターの舞台であるイギリスで1カ月間ホームステイをしました。そこで感じた英語の面白さや楽しさを生徒に伝えていきたいと考えています。

教職履修用の教科書

多　「いじめ」や「学級崩壊」……怖くありませんか？

恩　むしろ、そこに挑戦していきたいですね。そういう問題こそ、日本の教育現場の重要なポイントなんじゃないかなぁ。

松　そうですね。それに、そういう苦難が待ち受けていると理解した上で「なりたい」って思っています。新人教師の内はうまくいかずに困ることも多いだろうけど、決して諦めることなく、経験を積んでいきたいです。

與　きっと、簡単には生徒の力になれないと思うんです。だからこそ、いつか「どうしたの？」って力を貸せるようになりたいなぁって思います。

多　MMUで教師を目指す良さは、どこにあると思いますか？

與　教育大学じゃないところが魅力的ですね。

恩　同感です。MMUのほうが、幅広い知識を身につけた上で教師になれるから良いですよね。

松　どの大学にいても、教師になれる人はなれるし、なれない人はなれないからね。

與　MMUは、教育学部と比べたら教育実習の場数を踏む回数が少ないんです。だから、教師になるための専門性を極める点は弱いのかもしれない。だけど、MMUは自分が動こうと思えば動けるし、そのための授業や体験の場も充実していますよ。

恩　ちなみに、MMUには教職履修者向けのサークル「ちぃーてぃー」があります。そこで授業の練習をしたり、教育について情報交換したりできますよ。

松　MMUの学生は、決められたルートを辿るのではなく、自分たちで試行錯誤してゴールを目指して行くんです。

與　一本道じゃないってことですね！

■記事　多田 恵菜（2年　大衆文化・出版文化論ゼミ）

温故知新

小さな町の大きな歩み

広告コミュニケーションゼミ presents

@MIYAZAKI

アット ミヤザキ

学生独自の発想力・視点から、
新しい宮崎の魅せ方を提案する

堀川橋周辺の様子

マグロ水揚げ後の油津港

弁甲筏流しの様子

景気に沸いた港町「油津（あぶらつ）」

宮崎県の南部に位置する日南市は、日向灘に面し、特産の飫肥（おび）杉に囲まれた自然溢れる街である。中でも日南市油津地区は、古くから港町として栄え、昔ながらの景観の残る町だ。油津の地名は、桓武天皇のお妃「吾平津姫（あひつひめ）」を由来としている。

油津を象徴する「堀川運河」は、江戸時代に開削された。その主な目的は、当時日本中から需要があった、飫肥杉を運ぶためであった。飫肥杉は粘りがあり、水に強いことから造船材として重宝された。この船材は「弁甲」という特殊な名前で、イカダに組んで堀川運河を下り、油津港へ運んでいた。この様子は「弁甲筏流し」と呼ばれ、船材を安全かつ安価に運ぶことを可能にした。その後も、堀川運河は飫肥林業にとって、なくてはならない存在であったため、昭和10年に行われた堀川改修工事で工費3万7000円、現在で換算すると9億6200万円がかけられた。開削当時の堀川運河にかけられた費用や労力がいかに莫大なものだったかがわかる。

古くから天然の良港として有名だった油津港は、港湾整備が進んだこともあり、マグロの水揚げ量が急増。昭和6年には、36,817尾という東洋一のマグロ水揚げを誇り、全国のマグロの相場が油津で決まっていた。昭和39年には、戦後初の4億円の水揚げを記録し、飫肥林業と共に、油津の商業を支えてきた。

かつての油津の繁栄は、今も古き良き風景としてこの地に息づいている。一方最近では、地域活性化を目指した新たな空間作りも活発に行われており、日本全国から注目を集めている。先人たちが成し遂げた偉業は、油津を盛り上げようという熱い想いの原動力となっている。

写真提供：日南市役所教育委員会

@MIYAZAKI

ぶらぶら油津まち歩き

油津は、案内板やパンフレットがあらゆる所に設置されており、初めて訪れた人でも気軽にまち歩きを楽しむことができます。今回は、そんな油津の現在の様子をちょこっと紹介します。ぜひ一度、足を運んではいかがですか？

ABURATSU COFFEE

商店街の一角に位置し、商店街再生の第一弾としてオープン。昔、市民の憩いの場だった喫茶店「麦藁帽子」の跡地をリノベーションし、おしゃれに敏感な若者だけでなく、麦藁帽子世代の年配な方も来店する。

店内では日替わりバケットやアサイーボウル等の軽食が楽しめる。中でも、パンケーキは「九州パンケーキ」を使っており、人気を集めている。

夢見橋

飫肥杉を使い、ボルトや金物を使わない伝統工法の「木組み」で造られた橋。部材をつなぐ込み栓には、地元小学生を中心に４千人の「夢」がメッセージとして書き込まれている。また、油津の新たな憩いの場にもなっており、油津堀川まつりやスケッチ大会などのイベントも開催されている。

堀川橋

明治３６年に堀川運河に架けられ、文化庁登録有形文化財に登録されている。長さ２１ｍ、幅４．８５ｍで、現在でも現役の橋として人々の生活に役立っている。また、平成４年には映画「男はつらいよ」シリーズの舞台となったこともある。油津を代表する景観の１つである。

杉村金物本店

木造３階建の店舗兼住宅として昭和７年に建設され、文化庁登録有形文化財に指定されている。建築当初、マグロ漁が栄えた時には、漁船向けの漁具をはじめ、水産・農工・鉄道・林業・土木などで扱う道具や日用品も扱っており、それらの商品が今も数多く現存している。

また、３階の廊下には戦時中の銃弾跡が見られるなど、店内に足を踏み入れると、まるで昭和にタイムスリップしたような雰囲気を味わえる。

■記事　広告コミュニケーションゼミ生　一同

CIRCLE DE GOSHiP No.7

GOSSHiP= ゴシップ＝噂。MMU の部・サークルに関する噂の真実を調査。

今回の噂：見事に復活したサークルがあるって本当？

／お答えします！＼

廣田 育子さん（卒業生）
英米文学ゼミ出身

本当です！

私たち着物サークルは、2013年の8月から活動を再開しました！　このサークルでは、装道礼法きもの学院の先生をお呼びして、浴衣から振り袖まで一人で着付けができるように練習をしています。また、留学生が来た時の着付け体験教室のお手伝い等もしています。

ただ単に着付けをするだけではなく、礼法（挨拶やふすまの開け方など）や着装時の仕草・振る舞いから学び、内面からにじみ出る美しさを追求しています。着物を通して日本人としての和の心が身につくのはもちろんのこと、社会人になっても生かせるスキルが得られますよ！

サークルを立ち上げたきっかけは、1年間の英国留学です。海外に出て初めて、日本文化について何も知らなかったことを痛感し、何かできることはないかと考え、この活動を始めました。

グローバル化が叫ばれている今だからこそ、着物をきっかけに日本文化を知っていただけたらと思います。着物は、帯の結び方だけでもいろいろなバリエーションがあり、楽しむことができますよ！着物を持っていなくても、練習用の着物の貸出を行っているので安心してお越しください。男性の参加者ももちろん大歓迎！　週に1回活動しています（取材当時は毎週月曜日の18～20時頃）。

興味のある方はぜひ、交流センターの和室をのぞいてみてくださいね。

■記事　多田 恵菜
（2年　大衆文化・出版文化論ゼミ）

連続リレーエッセイ　その6

いいだしっぺ

◆執筆
山口 裕司 教授
（政治学ゼミ）

1991年大阪大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学。学校法人南京都学園研究センター研究員を経て、1993年開学当初から宮崎公立大学専任講師として着任。2002年より現職。

旅と私

昭和四十九年八月から九月にかけて、ひとりで東北地方を旅行した。当時大阪府下の大学二年生だった。

高校時代に修学旅行で東京都や栃木県（日光東照宮など）まで行っていたので、さらに北を目指して東北旅行を思い立ったのだろうか。四十年後の今、定かでない。

旅行を実現するために夏休み前半はバイトをした。大阪市の町工場での筋肉労働。その資金をもとに、大阪から東京経由で東北を目指した。交通手段は基本的に国鉄（ＪＲ）で、周遊券などを利用した記憶がある。

正確な旅行経路は不明である。私の記憶では、主な自治体としては、郡山、二本松、仙台、花巻、釜石、宮古、盛岡、むつ、青森、秋田、山形、そして東北ではないが、新潟、佐渡、金沢、大阪という流れだった。ほとんどは旅館や民宿に宿泊したが、秋田駅では寝袋で仮眠したことが忘れられない。

四年前、東日本大震災の被災地が映像で流れていた。特に気になったのは宮古、釜石、松島などであった。私の旅行中に大津波が来ていたら、二十歳の私はきっと津波に呑み込まれていただろうと。今回の犠牲者の中には偶々当地に居合わせた人もいただろう。その意味でもあの大震災は衝撃的だった。

東北を旅行先に選んだことで、必然的に松尾芭蕉の『奥の細道』の行程と重なる部分があった。当時の私はそれほど俳句に関心はなく、芭蕉を意識して東北を選んだ訳ではなかった。しかし中尊寺、立石寺など芭蕉ゆかりの地を観光案内を手掛かりに実際回っている。現在唯一の趣味である俳句との関係はどう説明したらいいのだろうか。東北旅行は句作を始めるきっかけになったのか。これ以上詮索するのはよそう。

東北旅行を振り返ると結果的に有益だったことがある。それは四十七都道府県めぐりへの貢献である。それを成就したのは五十二歳の頃だった。学会などを利用してそれなりの地域に行くが、東北では仙台市で開催されるぐらいではないか。若いうちに東北旅行をしていたのは全国めぐりという意味で良かった。

ちなみに、四十七番目に訪問したのは鳥取県である。大阪時代、いつでも行けると思っていたのが悪かった。宮崎に戻ってみると鳥取は行きづらい場所となった。とはいえ着地せずに通過しただけの県もある。埼玉、群馬、富山の三県だ。そのうち着地したい。

MMU NEWS PLUS

H26.9～H27.3

MMUの新着情報は、ウェブサイトでもご確認いただけます

9 September
19日　定期公開講座「オリンピックとメディア」を開講（～10月17日）

10 October
14日　インターンシップ報告会を開催

11 November
1日　大学祭「凌雲祭」開催（～2日）
7日　学生選書ツアーを実施
9日　「保護者説明会」「保護者のための就職ガイダンス」を開催
18日　学生企画による第2回企業見学バスツアー（体験型）を実施
25日　公開研究発表の一環として、「福祉協力員の視察研修会」において辻教授が発表（於宮崎西地区交流センター）

12 December
18日　クリスマスコンサートを開催（～19日）
23日　宮崎インターナショナルクリスマスマーケット2014をMMUで開催

1 January
26日　短期研修生受入れ事業を実施（蔚山科学大学校生、～2月20日）

2 February
8日　卒業論文発表会を開催（～18日）
10日　FD研修会を実施
21日　阪本准教授による自主講座「大衆社会と出版文化」を開講
21日　小学6年生向けの英語講座を開講（～3月1日）

3 March
24日　平成26年度卒業式を挙行

Pickup News

11/9 在学生の保護者に向けた行事を開催

全学的な「保護者説明会」を、宮崎公立大学後援会との共催により開催。午前の「全体会」では、MMU人文学部の教育課程や留学制度の紹介、海外での研修やインターンシップを経験した学生による発表等を行いました。午後は、各種相談コーナーを設け、保護者の方と教職員が直接話せる「個別相談会」を実施しました。（写真：教育課程を説明する田中人文学部長）　また、同日、就職支援室主催の「保護者のための就職ガイダンス」も実施し、こちらにも多くの保護者の方にご参加いただきました。

訃報

金子正光教授におかれましては、平成26年10月22日（水）、くも膜下出血のため逝去されました。享年60歳でした。同教授は、MMU開学にあたって設置されたカリキュラム検討委員会の委員を務める等、MMUの礎を築いたお一人でした。

専門分野である情報科学の研究に邁進し、多くの学生に対して熱意を持って教育にあたられると共に、情報リテラシーや情報機器操作に関する生涯学習事業で、長年にわたり地域社会に広く貢献されました。ここに謹んで金子教授のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

学生記者紹介

前回より主体的に関わりたいと思い参加しましたが、また周りの皆様に助けられる形となり、感謝しています。冬も終わり暖かくのびのびとした春が来ます。MMU の桜並木と新学期が今から楽しみです。
七野 帆乃美
（2年　文化人類学ゼミ）

一度に３本の取材・記事執筆をしたのは初めてです。幾度も難航しましたが、なんとか形になりました。学務課のクリンガーさん、取材・アンケートに協力してくださった皆さま、読者のあなたに感謝です！
多田 恵菜（2年　大衆文化・出版文化論ゼミ）

今回初めて制作に携わらせて頂きました。協力してくださった方々、本当にありがとうございました。
武藤 桜華（1年）

編集後記

『可能性』辞書には「実現や実行の見込みがあること」とあります。今回初めてMMU SHiP編集に参加し、学生記者の発想や着眼点、好奇心、行動力にこれからの無限の可能性を感じました。社会に出て時が経つと可能性の限界を意識することもありますが、編集に携わる過程で、自分の感覚が試され新たな発見があり、貴重な体験となりました。

「取材相手の方との一期一会を大切にしてMMUらしさを伝えたい」という学生記者の想いを、読者の皆さまにお届けできる一冊になったと思います。ご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

■担当　椎葉 聡美（企画総務課 経理係）

２期続けて学生記者を務めさせていただきました。特集１の記事が、一人でも多くの学生にとってわずかであれプラスになれば、こんなに嬉しいことはありません。
福守 鴻人（1年）

宮崎公立大学広報誌『MMU SHiP』vol. 7はお楽しみいただけましたか？
読者の皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております！　右記のEメールアドレスへ >> お送りください。

Eメールアドレス
mmu-ship@fc.miyazaki-mu.ac.jp

宮崎公立大学 広報誌
MMU SHiP vol.07
2015年3月発行
発行者 金丸 健二

〒880-8520 宮崎県宮崎市船塚一丁目1－2
電話：0985(20)2000 FAX：0985(20)4820 URL：http://www.miyazaki-mu.ac.jp/

←スマートフォンサイトはこちらからアクセス！

未来のcompass

社会で活躍するMMU卒業生に社会人としての近況を語っていただきました

国際協力はチャリティーではない

JICAデスク宮崎
国際協力推進員
北園 さつ紀 さん
平成16年度卒業生
国際法ゼミ（当時）
（写真：平成24年 タンザニアにて）

「国際協力」を始めたルーツ

きっかけは、小学生の頃。授業でアフリカの写真について、先生が何度も「可哀そうだ」と表現していたことに対し、「現地の人は、常に自分たちが可哀そうと感じているわけではないはず」と思ったんです。そのことを母に話すと「実際に見てみないと分からない。自分の目で見て考えたことを人に伝えられる人になりなさい」と言われ、その時から「いつかアフリカに行こう」と思うようになりました。MMUに入学したのも、アフリカに行くなら幅広い知識と教養が必要だという高校の先生の勧めがあったからです。

青年海外協力隊時代

MMU卒業後、大学院を出てから2年間は、青年海外協力隊としてタンザニアでエイズ対策隊員として活動していました。時には水が3カ月出ない・家で電気が週2回しか使えない等、インフラが整っていない中での生活でした。

やりがいを感じたのは現地の人々に目標を持ってもらえた時。日本に比べHIVやエイズが身近なタンザニアでは、HIVに感染したことで、仕事を辞めさせられたり村八分にされる等、差別を受けることがあります。そんな中で、生き方や人生設計を考えるセミナーを開催し、それぞれの人生について考えてもらうきっかけとなれたことが自分にとっても良かったと思います。その際、PLWHA（HIV・エイズと共に生きる人々）の「明日をどう生きるか」「自分が子どもたちに残してあげられるものは何か」といった設計を促すつなぎ役として活動していました。これらの活動やセミナー開催の呼びかけにしても、現地の市役所や機関等を巻き込むことができたのですが、きっと私が外国人だからこそ話を聞いてもらえたのかな、と思っています。

現在の仕事について

JICAの国際協力推進員として、JICAボランティアの応募・相談、学校での国際協力出前講座、地方自治体等との国際協力推進事業、「草の根事業」という日本の地方自治体や民間企業・団体による開発途上国への協力活動の支援等…国内外の人と組織を繋ぐための宮崎の窓口を務めています。言葉や経験で人と人・国と国を繋ぐということが責任でもあり、やりがいです。

ただ、国際協力はなくなることが理想だと思っています。支援する、されるという関係を正当化したくないという矛盾の中で生きている感覚がありますね。国際協力はチャリティーではない、そう思います。協力隊時代は、その国に必要とされて派遣されたはずなのに、私がいなくても派遣先の事業は機能していると感じ、辛く思ったこともありました。

学生へメッセージ

人との距離が近づくように、固有名詞でのつながりをたくさん作ってほしいです。自分がひとりの人として、ひとりの人と付き合うというような。相手のことを少しでも知るとさらに知りたくなるし、その人を通じて、人や物事との新たな出会いが生まれることもたくさんあります。

大学内は世界と同様に異文化だらけだと思います。学内外にかかわらず多くの人々と出会って話をしてほしいですね。うまくやっていけるか分からないと感じても、視点を変化させて自分がどう付き合っていくか考えてみると良いですよ。その中で出会った人々との縁を大切にしてください。…あっ、これらは自分自身へのメッセージです（笑）。

国際協力機構（JICA）

2003年設立の外務省所管の独立行政法人。政府開発援助の実施機関として多様な国際協力・援助を行う。

■記事　武藤 桜華（1年）